

学長式辞

入学おめでとうございます。コロナ過の完全な終息が見通せない中で入学式になってしまいました。直接参加されている皆さん、オンラインで参加されている皆さん、本学の第一期生である皆さんを心から歓迎します。

叡啓大学は大きく変化していくこれからの社会の中でコンピテンシーを身につけ、リーダシップを発揮しつつ新たな社会を牽引する人材の育成を目標に新設されました。これまでの大学は学問を身につけ、深めることによって社会の様々な分野に貢献する人材の育成を目標にしてきました。私達の新大学は、学問を社会を俯瞰し理解するための手段として身につけ、新しい社会のあるべき姿を描き、その中で新しい社会のシステムを設計することによって社会をリードする、そんな若者を育てたいと思っています。

私達の大学には当然ながら輝かしい過去の栄光はありませんし、社会で活躍している卒業生もいません。輝かしい歴史を作るのはあなたたちであり、社会で活躍して名を上げるのもあなたたちです。特に、先輩のいない第一期生のあなたたちは自ら歴史を作り、後輩達に可能性としての道筋を示していくことになります。あなたたちの学生生活もまた、ソーシャルシステムデザインの一部になっていくのです。

入学式にふさわしくない話をしましょう。現在、大学を卒業して3年で約3割の人が離職していると言われていています。いわゆる偏差値の高い大学を卒業して大企業に就職した若者が、答えない問題に直面して路頭の迷っているという話も良く聞きます。これまでの、定まっている正解に早くたどり着く訓練は実社会では役に立たないことが多いのです。

実社会の問題は正解がないことが多いだけでなく、社会そのものが大きく変化している中で問題そのものも不明確になっています。Society5.0という言葉聞いたことがあると思います。モノ中心の社会から情報化社会へと変化してきた中で、更にその次の社会を指す言葉として使われています。知識集約社会というのがその一つの側面です。スマホやタブレットの普及によって世の中には膨大なデータがあふれています。データを処理することによって情報が得られます。更に、情報の処理から知識を得ることができます。知識を適切に運営するのが知恵です。GAFと呼ばれる企業はこのプロセスをプラットフォームとして構築運用しています。このプラットフォームによって無形資産である知識から利益を生み出しているのです。これは従来とは異なる新しい資本主義と言えます。

このように社会の構造的な変化が進んでいる中で、日本では戦後76年の成功体験に酔い、その後の失われた20年を経ても未だこの変化に対応しきれていません。これからの社会は今まで以上に大きく変わります。

従来の大企業に変わって新しい企業が台頭しています。大都市中心の経済から地域が直接世界に開いた新しい経済が生まれます。若いあなたたちが身につけた知識と技能で新しい社会を描き、新しい社会の仕組みやビジネスを実現していく大きなチャンスがあるのです。

科学技術の発展は人々の生活を豊かにし、快適な生活をもたらしました。しかしそれによって拡大した人間活動が地球環境に大きな影響を与え始めています。世界の政治経済の基盤であった民主主義も世界のあちこちで揺らぎ始めているように見えます。経済原理も知識集約社会の到来とともに大きく変わろうとしています。私達の今までの常識が通用しないような変化が起きつつあるのです。今、普通にある職業の半分以上は何年か後にはコンピュータに置き換えられてしまうとされています。この様に大きく変化していく社会をたくましく生き抜いていく能力を私達はコンピテンシーと名付けました。

コンピテンシーとは？叡啓大学では本質的な課題を発見できる「先見性」、解決策を立案できる「戦略性」、自らリーダーとしてやり抜く「実行力」、高い志を持ち学び続ける「自己研鑽力」、多様性を尊重し他者と協働する「コラボレーション力」を社会におけるコンピテンシーと考えています。また、これからの社会で何事をなすにも不可欠なスキルとして、入学直後から ICT の基本と英語によるコミュニケーション力育成の訓練を徹底して行います。加えて、Peace、Partnership の基盤科目群と、People、Prosperity、Planet の観点の科目群からなるリベラルアーツ科目によって社会を様々な視点から俯瞰的に見ることのできる知識を身につけ、様々な提携先との国内、海外でのインターンシップや留学機会によって幅広い知見を身につけるとともに、PBLによって実際の課題に取り組む実践力を身につけるプログラムも用意しています。

学んだ学問を基礎に、将来のありうべき社会像を様々な人達と議論しながら描くと現実の社会との落差が見えてきます。それが課題になります。また、学外の企業や官庁の抱えている問題を見るとき、それがどうあるべきなのかを考えれば本当の課題が見えてきます。この様な課題を様々な人達と協働しながら克服していくこと、これが未来の社会システムを共創していくことにつながります。その時に不可欠なのが身につけた基本的なスキルとコンピテンシーになります。

色々としんどいようなことも言いましたが、皆さんにはこの広島の地で伸び伸びと大きく育ってほしい。大学における学びは高校までの教育とは根本的に違います。高校までは教わる生徒、大学では学ぶ学生です。この差の大きさを自覚しながら日々の研鑽と自由闊達な交流を進め、叡啓大学での学生生活を大いに楽しんでください。私達教員も全面的に協働していくつもりです。